

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第298回

仰木 彬

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年3月14日

編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉



山に登るルートはたくさんあるのだから、
自分の成功体験を押し付けてはいけない。

仰木 彬は、福岡県出身のプロ野球選手、プロ野球監督、野球解説者。昭和30年代の西鉄ライオンズ黄金時代に正二塁手として活躍し、引退後は西鉄、近鉄、オリックスのコーチ・監督を歴任した。

Column

写真にも使用しましたが、“イチロー選手の育ての親”と称された日本プロ野球会の名将と呼ばれる人物です。また、現在は日本のプロ野球選手がアメリカメジャーリーグに挑戦することは珍しい話ではありませんが、そのパイオニアとなった『野茂英雄』選手を近鉄バッファローズ時代に育てたことでも知られています。

今回の言葉は、みなさんに向けてというよりも指導者の大先輩からのアドバイスとして私自身に刺さった言葉です。規模の大きさに関わらず、成功体験というものは自分にとって非常に大切な『糧』となり、次の挑戦への大きなパワーになるものです。そして、自分の成功体験や経験から作り上げられた“スタイル”というものは、ひとつの“基本”として自分の中に強く残っているものであり、効果としても実感している部分もあることからアドバイスの材料として自信を持って提案できるものです。しかし、十人十色という言葉があるように人それぞれ感覚が違います。当時の自分と限りなく近い状況であったとしても、登場人物やタイミングが違えば全く別の話であり、当然ですが結末も変わるということは必ず理解しておかなければいけないことです。実体験からのアドバイスは、受け手からしても非常に説得力があり、参考にしやすいとは思いますが『だから同じようにしなさい（これが正解）』といったニュアンスで伝わってしまうと、良かれと思って伝えたことが成功・成長・解決の『手伝い』ではなく『押し付け』になってしまいます。これではアドバイスを与える側も受ける側も全く意味のないことではないでしょうか。非常に複雑で微妙なところではありますが、受けては完全にヘルプサインを出している状態であることが考えられるため、やはりこれはアドバイスを与える側が注意すべきところだと私自身も改めて肝に銘じました。

このようなことを述べると『じゃあ何も伝えられない』という意見が出るかもしれません。しかし、仲間が悩んでいればなんとかしてあげたいと思うのは自然なことです。誰一人として完璧な人はいません。本当は正しかったとしても『今は正しくない…』と感ずることだってあります。まずは一緒に考える、一緒に悩むことから始めてみませんか？人の心（感情）はとてもおもしろいものです。話を聞いてあげるだけで元気になってくれることも少なくありません。まずは相手の気持ちを読み取り、寄り添い、共に進むことです。仲間同士で支え合うこと、仲間を思う気持ちこそが成功・成長・解決の一番の特効薬なのかもしれません。そして、手っ取り早く答えを探すのではなく、試行錯誤を繰り返すことも自分の基本づくりにおいて重要なことなのだと思います。